

こんな時代だからこそ、 土に残るやさしさを。

筑西ふるさと大使 並木勝利 Namiki Katsutoshi



戦争や分断など、悲しいニュースが続く今、並木さんは静かに問いかけます。

「この世の中、少し急ぎすぎているだろうか」と。鬼怒川流域の川島地区で見つかった人面土器を、並木さんたちは「命の壺」と名づけ、川島駅前に復元しました。

2300年前の人々は、争うことを避けて、祈りのために土をこねて土器をつくるという、命を慈しむ生き方を選んでいたのかもしれませんが。並木さんがその想いを子どもたちに伝えたところ、一人の子どもの描いた人面土器の絵がコンクールで入賞しました。

命の尊さは、過去から今へ、そして未来へ、そっと受け渡されていくもの。

土に残る声を読み解き、その想いをやさしく未来へ手渡しています。

命を想う心が、このまちで静かに息づき、明日を照らし続けています。

■ 並木さんのおすそわけは、

**人面土器や川島の文化を未来に継承するために
アドバイスすることです。**

連絡先は、TEL.080-1189-3316